

市長に聞く

地域を守る 安心安全なまちをつくる

（鹿児島市消防局）

■本市が進める安心安全なまちづくりについて教えてください。

昨年3月11日に発生した東日本大震災では、観測史上最大級の巨大地震と、それに伴う未曾有の大津波などが重なり、多くの尊い人命と貴重な財産が一瞬にして失われ、改めて自然災害の猛威を痛感いたしました。

本市も、今から約100年前に発生した大正3年の桜島大噴火をはじめ、平成5年8月6日の豪雨災害など、数々の大災害を経験しています。



森 博幸 市長

このような大規模な自然災害の発生などを受け、防災に対する市民の皆さんの関心は一層高まり、消防の果たす役割と期待は、ますます大きくなっております。

火災対策はもちろん、桜島の大規模な噴火や、台風、豪雨といった自然災害など、あらゆる危機的事案から、60万市民の生命と財産を守り、安心安全な生活を確保することは、市政の重要な使命の一つです。

このようなことから、今年度スタートした第5次鹿児島市総合計画の基本目標の一つに「健やかに暮らせる 安全で安心なまち」を掲げて、総合的な危機管理体制と地域防災力の充実を図り、安心安全なまちづくりを強力に進めていきます。

■今後の危機管理や防災力の充実に向けた具体的な取り組みを教えてください。

本市では、これまで、40mのはしご車や高規格救急車などの各種車両の導入、隊員の活動装備の更新整備により、消防力の強化と安全対策の充実を図ってまいりました。

また、一般家庭における住宅用火災警報器の設置促進、消防団や自主防火組織などの地域における防災力の向上・強化に努めてまいりました。

さらに、昨年12月には、重症患者の救命率の向上を図るため、県内で初めてドクターヘリを導入しました。

今後は、多

様化・複雑化する各種災害に迅速かつ的確に対応できる消防体制と救急救命体制の強化を図るとともに、火災予防対策の充実にも努めてまいります。

私は、市民

一人ひとりが日頃から高い防災意識を持ち、「自らの安全は自ら守る」、「地域の安全は地域で守る」という共通認識のもと、家庭や地域で活動していただく「市民力」と「地域力」こそが、安心安全なまちづくりの根幹であると確信しています。

ぜひ、市民の皆さんには、住み慣れた地域で毎日を安心して暮らせるよう、自助と共助の意識を持っていただきたいと思います。

今後とも引き続き、市民の皆さんや、事業者、国や県などの関係機関などと一丸となつて、さまざまな災害への備えと対策に万全な体制で取り組み、安全で安心に暮らせる防災都市・鹿児島市の実現に向けて全力を傾注してまいります。



救命率の向上が期待されるドクターヘリ